

地球科学輻合ゼミナール

(2013年度 後期 第6回)のご案内

東北日本の地殻変動に関する測地学的時間と 地質学的時間スケールの「矛盾」

西村 卓也

京都大学 防災研究所

東北地方太平洋沖地震に伴い、東北地方の太平洋岸では最大約1mの沈降が生じたが、地震前の過去100年にわたっても、この地域は数10cm以上の沈降が観測されている。一方、地形・地質学的研究からは、一～十数万年の時間スケールにおいて東北地方の太平洋岸は隆起していると考えられており、両者の時間スケールにおいて正反対の上下変動を説明するためには、過去100年には観測されていない海岸を隆起させる機構が必要である。本講演では、NHKスペシャル「メガクエイク」シリーズで放送された関連する話題にも触れながら、測地学的データに基づく最近100年余の地殻変動を概観するとともに地殻変動の「矛盾」を説明するモデルの提案を行う。

11月20日(水) 午後4:30～午後6:00

場所：理学研究科6号館 303号室